

方針一 9 常緑・落葉広葉樹は、歴史文化的経緯や自然特性に基づいた配植とし、植栽地の立地特性や他の植栽との調和に配慮する。

○植栽樹種（方針一 2 参照）

常緑広葉樹：アラカシ、イチイガシ、シラカシ、コジイ、スダジイ、クスノキ、ナナミノキ

落葉広葉樹：アキニレ、エノキ、ケヤキ、ムクノキ、イヌシデ、ムクロジ、イチョウ

※イチョウは針葉樹であるが、景観特性が落葉広葉樹に近いことからこの項に含める。

○配植方針（配植案は 65 頁の図参照）

①古都に相応しい大径木の保護・育成に配慮した配植とする。

- ・現存する大径木の保護と後継樹の育成に配慮した配植とする。

②歴史文化的経緯や自然特性に由来する大径木の分布傾向を参考に配植する。

- ・歴史文化的経緯による樹種分布を尊重した配植とする。

春日大社、手向山神社に大径木が多く見られる樹種：イチイガシ（52 頁の図参照）

手向山神社や春日大社など神社にのみ見られる樹種：オガタマノキ（52 頁の図参照）

平坦部の草地やその周辺に点在する大径木が多い樹種：クスノキ（52、56 頁の図参照）

東大寺（旧境内地含む）に大径木が多く見られる樹種：イチョウ（58 頁の図参照）

- ・自然植生の傾向に基づいた配植とする。

水系沿いに大径木が多く見られる樹種：ケヤキ、エノキ（60 頁の図参照）

山地に大径木が多く見られる樹種：ウラジロガシ、イヌシデ、コナラ、ムクノキ

（63 頁の図参照）

○各ゾーンの植栽計画において配慮すべき事項

③各植栽地の景観との調和に配慮した植栽とする。

- ・常緑・落葉広葉樹は、マツ林や花木林や芝地への配植は控え目とする。
- ・眺望景観への影響が大きい植栽地は、樹高に配慮して配植する。（65 頁の図参照）
- ・視線の遮蔽が必要な植栽地は、常緑広葉樹を優先して配植する。

1) 常緑・落葉広葉樹の大径木の分布状況

i) 大径木の分布についての考え方

常緑・落葉広葉樹の配植を検討するにあたっては、主に大径木の分布状況を検討材料としている。これは、以下の理由による。

- ① 大径木は公園の魅力の一つであり、大径木保護に関する法律・条例や図書等が多くあり、広く関心が高い。
- ② 大径木の分布状況により、過去（明治～昭和前期）の樹種分布が推察可能である。
- ③ 大径木の分布状況により、植栽地と樹種特性の適合性が確認できる。
- ④ 大径木の分布状況と施設配置の関係から、過去の植栽の配植意図が推察できる場合がある。

ii) 大径木の分布状況

●大径木の区分と調査データについて

大径木分布のデータは、以下とおりである。

巨木 ※1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幹周 3 m以上の常緑・落葉広葉樹。 但し花木類、ナンキンハゼは除く。 ・ 幹周 2 m以上のナナミノキ、オガタマノキ、イヌシデ（十分に成長しても幹周 3 mを越えないため） ・ 想定樹齢 150年以上。但しクスノキは生長早く想定樹齢未満もあり得る。 ⇒概ね明治以前からあった植栽と考えられる。 <p>根拠データ：重要樹木調査結果（平成 25 年 9～10 月）に現地踏査結果を加筆</p>
大木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幹周 1.8 m以上の常緑・落葉広葉樹。但し花木類、ナンキンハゼは除く。 ・ 想定樹齢は 90年以上。但しクスノキは生長早く想定樹齢未満もあり得る。 ⇒概ね昭和(戦前)からあった植栽と考えられる。 <p>根拠データ：現地踏査(平成 26 年 9 月) ※立入禁止区域は除く、一部目測含</p>

※1 巨木の調査対象とする規格寸法は、「環境省自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」において「原則として地上から 1.3 mの高さでの幹周りが 3 m以上の木を調査対象とし、幹周りが 3 m以上に育ちにくい樹種（ツバキ、マユミなど）については、3 m未満でも調査対象とした。」と規定されていることを参考にした。

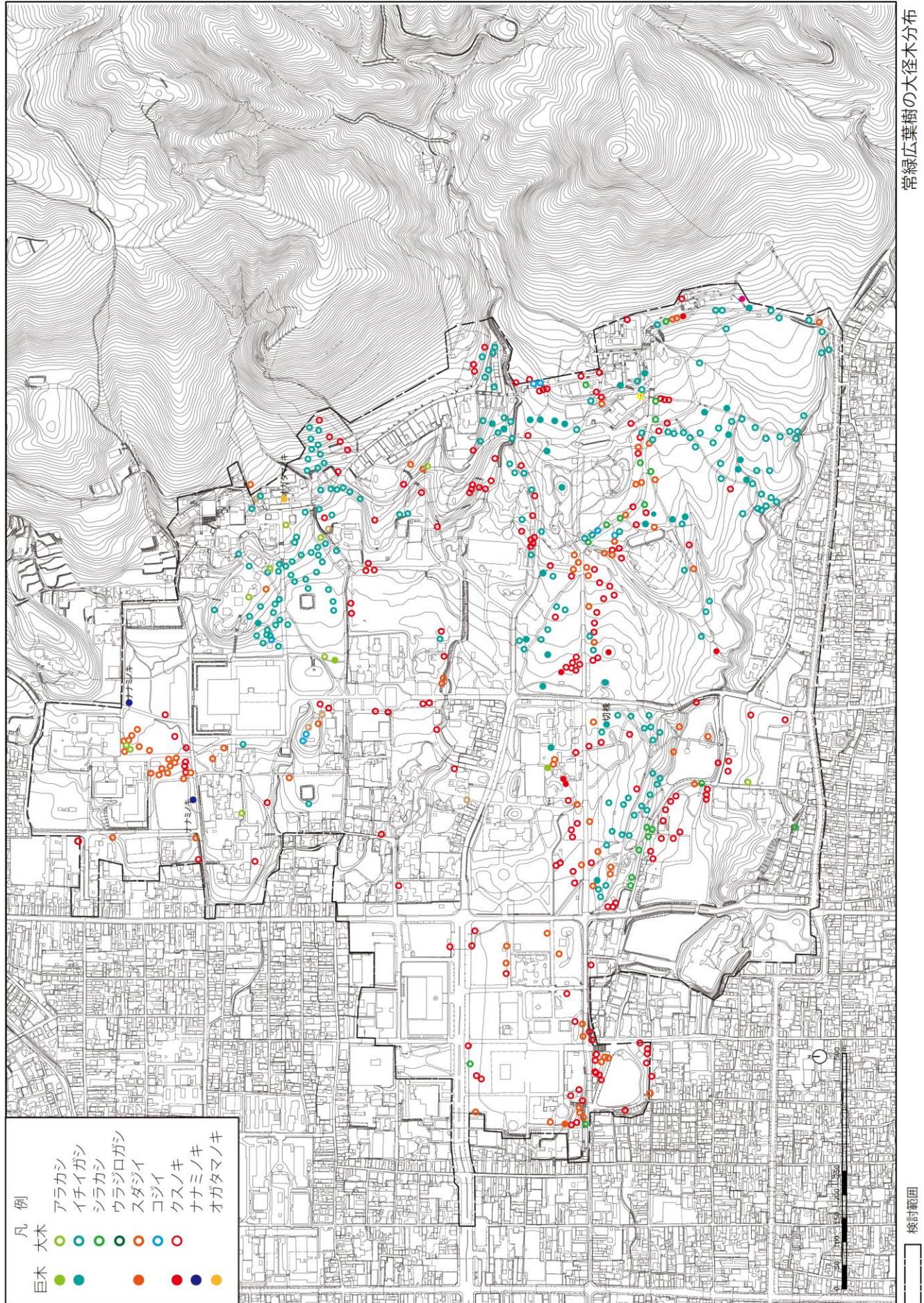
全国の樹種別巨木総数(上位10樹種)

巨樹・巨木林調査による

順位	樹種	本数	
		第6回基礎調査(2000年)	第4回基礎調査(1988年)
1	スギ	14,869	13,681
2	ケヤキ	9,452	8,538
3	クスノキ	5,926	5,160
4	イチヨウ	4,855	4,318
5	スダジイ	4,830	3,530
6	タブノキ・イヌグス	2,124	1,907
7	クロマツ・アカマツ	1,677	1,729
8	ムクノキ	1,641	1,465
9	モミ	1,605	1,364
10	エノキ	1,371	1,221

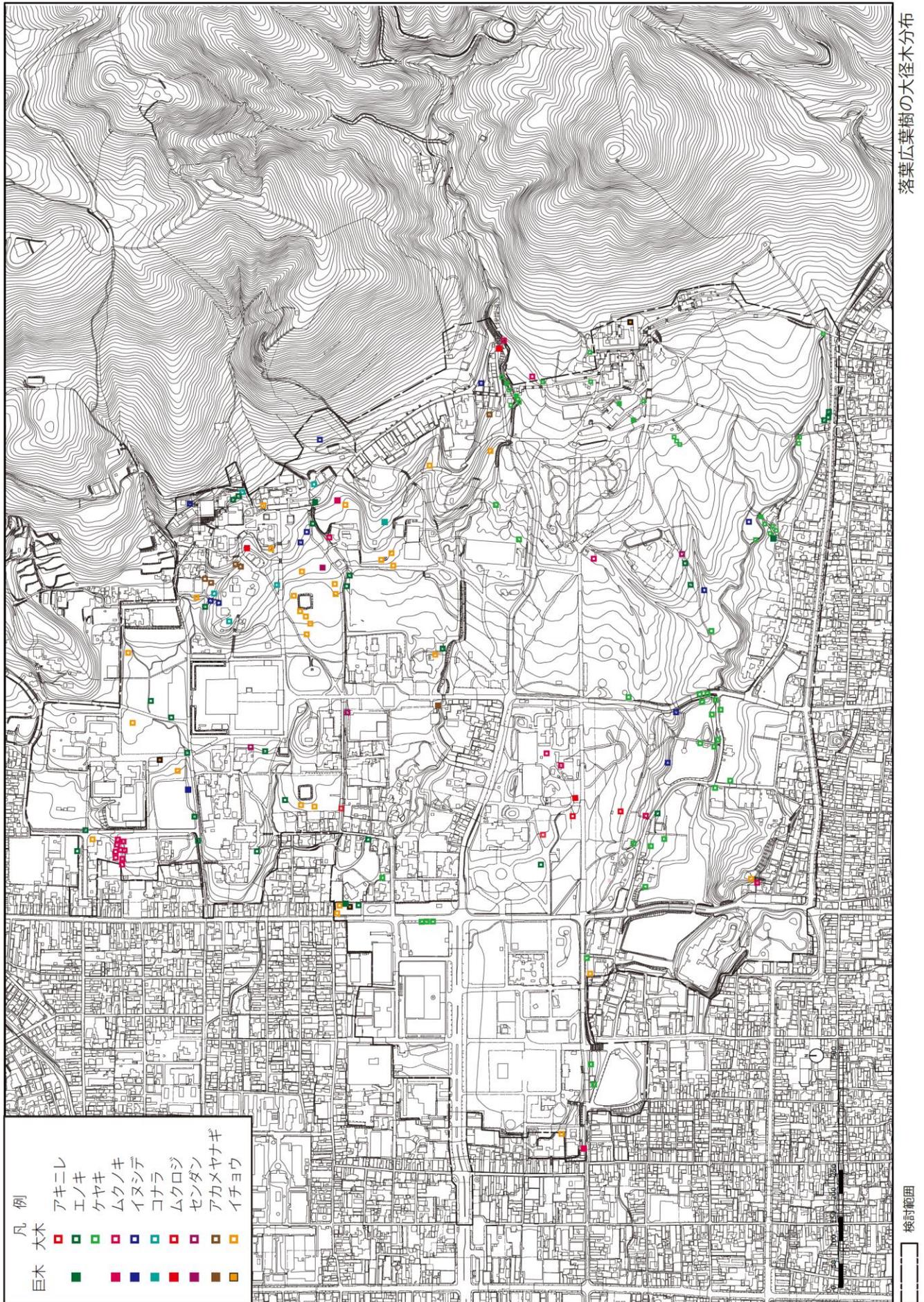
*「クロマツ・アカマツ」は比較のために1種とした

① 常緑広葉樹の分布



図：常緑広葉樹の大径木分布

② 落葉広葉樹の分布



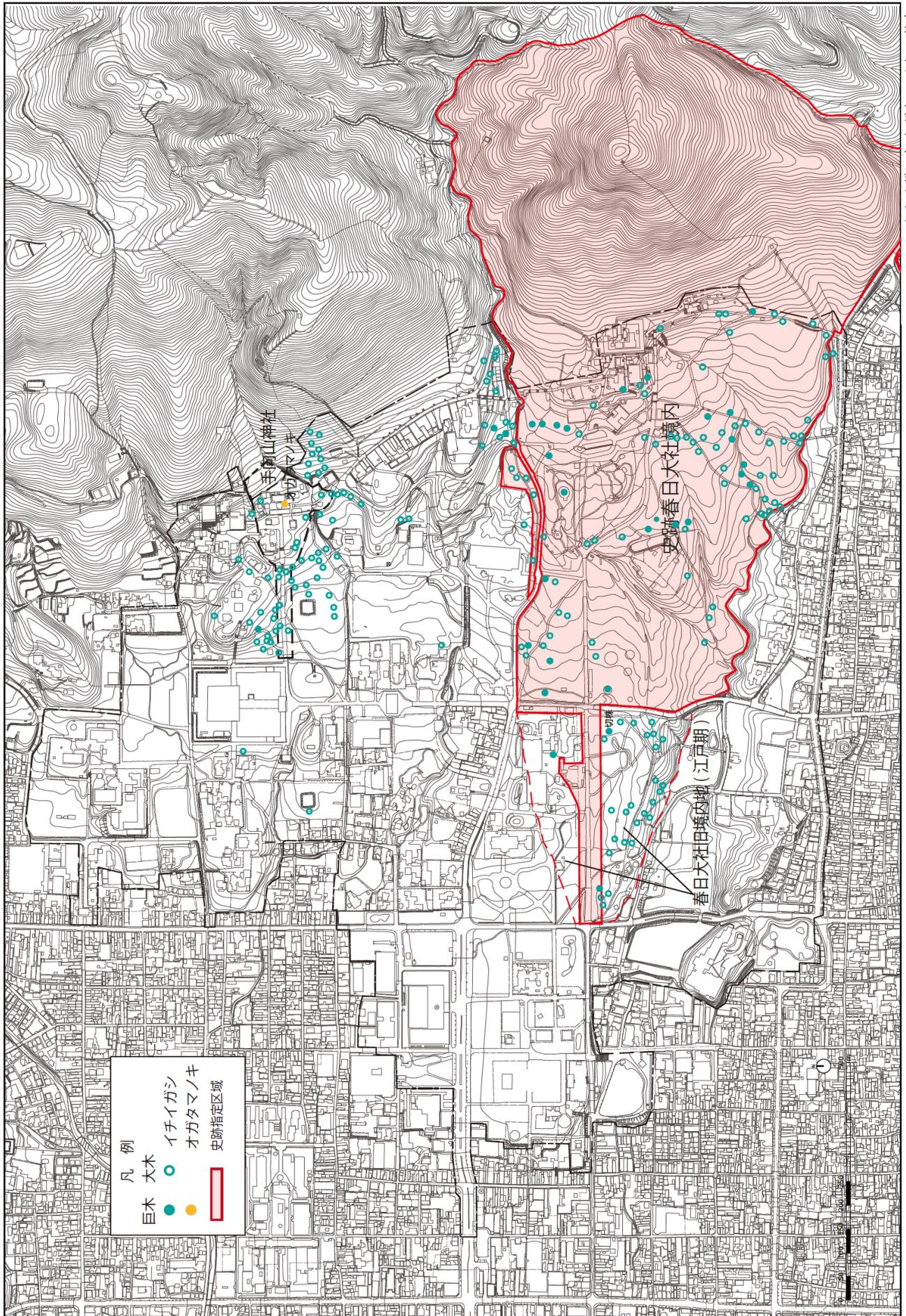
図：落葉広葉樹の大径木分布

③イチイガシの分布

<p>大径木の分布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巨木は、春日大社境内または旧春日大社境内(現公園区域)に分布している。 ・大木は、旧春日大社境内(現公園区域含む)と手向山神社周辺に密度高く分布している。一部東大寺東塔又は西塔付近に見られる。 ・イチイガシの大径木は、多くが樹林内部に位置しており目立つことは少ない。付近には、スギ、スダジイ、クスノキの大木が多く見られる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>春日大社境内の巨木</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>浅茅ヶ原(公園区域)の大木</p> </div> </div>
<p>特徴・由来他</p>	<p>○在来樹種の代表格(奈良市の木) 古来より奈良盆地やその周辺にはイチイガシがよく生育し、イチイガシ林を形成していたと考えられている。 出典: 奈良市HP</p> <p>○天然記念物の指定 春日大社境内にはイチイガシの巨樹が多く、幹周り3mを超える30本以上が「春日大社境内のイチイガシ巨樹群」として市の天然記念物に指定されている。 出典: 奈良市HP</p> <p>○手向山神社のイチイガシ 手向山神社は749年、東大寺及び大仏を建立するにあたって宇佐八幡宮より東大寺の守護神として勧請された。手向山神社には大仏建立千二百五十年祭(2002年)の折に宇佐八幡宮の神輿が訪問したことを記念した「イチイガシ」の木が記念に植樹されている。宇佐八幡宮がある宇佐市(大分県)と奈良市は、共に市の木は「イチイガシ」であり、現在両市は友好都市として交流を行っている。 出典: 関西大分県人会HP</p>

②オガタマノキの分布

<p>大径木の分布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巨木は、手向山神社本殿脇に位置している。 ・分布は限られており、手向山神社本殿、春日大社本殿、同若宮神社、三社池脇の祠などに胸高直径30cm程度のものが見られる。
<p>特徴・由来他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オガタマノキは、暖地に自生する常緑樹。オガタマは招霊(おがたま)がなまったものとの説があり、古くから心霊を招く木と見なされ神社に植える習慣がある。 <p style="text-align: right;">出典:「奈良公園の植物」北川尚史</p>



図：イチイガシ・オガタマノキ大径木の分布